

# 式部省補任 永井 晋編 A5判上製・函入・656頁

2008年5月刊行 定価 12,600円 (本体 12,000円 + 税 5%) ISBN978-4-8406-2031-4 C3321

## 好評既刊 補任シリーズ

### 弁官補任 全三冊 飯倉晴武編

- ①大宝元年～文永十一年 新訂版刊行準備中 262頁・品切
- ②建治元年～宝永六年 282頁・定価 5,460円
- ③宝永七年～明治二年

蔵人補任 市川久編 484頁・定価 10,500円

官史補任 永井晋編 416頁・定価 10,500円

外記補任 井上幸治編 490頁・定価 10,500円

### 近衛府補任 全二冊 市川久編 揃定価 18,900円

- ①大同二年～延久四年 314頁・定価 9,450円
- ②延久五年～建久九年 336頁・定価 9,450円

衛門府補任 市川久編 354頁・定価 10,500円

### 検非違使補任 全三冊 宮崎康充編 揃定価 28,350円

- ①弘仁七年～貞応二年 400頁・定価 7,350円
- ②元仁元年～元弘三年 260頁・定価 9,450円
- 別巻 330頁・定価 11,550円

### 国司補任 全六冊 宮崎康充編

- ①大宝元年～延暦十年 420頁・定価 7,350円
- ②延暦十一年～仁和四年 532頁・定価 9,450円
- ③寛平元年～寛和二年 474頁・定価 8,400円
- ④永延元年～延久五年 512頁・定価 9,450円
- ⑤承保元年～平治元年 622頁・品切
- 索引 人名索引 696頁・定価 12,600円

歴名土代 湯川敏治編 530頁・15,750円  
山科言継・言経父子自筆の四・五位の叙位記録

### 新撰関家伝 米田雄介・荒川玲子・詫間直樹編 274頁・定価 9,450円

鎌足より藤原北家の当主を掲出し、五撰家分立以前は補任順に、五撰家分立以後は、近衛・鷹司・九条・二条・一条の家毎に掲出

\*「補任シリーズ」はすべてA5判上製・函入です。



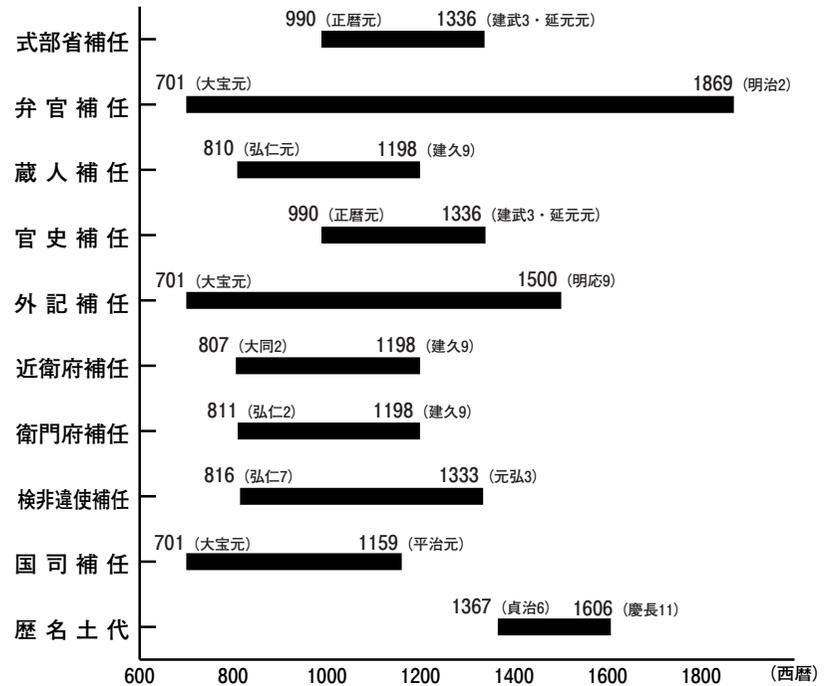
人事や儀式を担当し律令八省の中で重要な役割を担った式部省の九九〇年から一三三六年までの期間の補任記録をあらゆる史料を博捜し編年で編集

# 式部省補任

内容見本

永井 晋編

二〇〇八年五月刊行!



八木書店

## 出版部

Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8

●TEL: 03-3291-2961 [営業] -2969 [編集] -6300 [FAX]

●E-mail: pub@books-yagi.co.jp ●Web: http://www.books-yagi.co.jp/pub

Shikibu-sho is the ministry of Japanese central administration system in the ancient and medieval periods. The primary function of this ministry is to hold human affairs and ceremonies of the civil service. Shikibu-sho Bunin is a list of government officials of Shikibu ministry which is based on various historical records in Heian and Kamakura period.

古記録・古文書を読むための基本資料  
「補任シリーズ」最新刊!

■本書の特長

- 藤原道隆政権の成立した正暦元年（九九〇）から建武政権が崩壊した建武三年（延元元年（一二三六））までの期間について、**編年で編集した式部省の四等官の補任記録**。
- 文章道大業の者が専門職として勤めた**文章博士・東宮学士・大学頭と、文章道の者を多く補任した内記局も併せて収録**。
- 二百をこえるあらゆる分野の史料を博搜し採録**。
- 任官期間が一目で分かる詳細な人名索引表**。
- 付載した人名考証はとりあげた人物の系譜・経歴がわかり人名辞典としても有用**。
- 式部省についての解説、及び重代の家として頻出する家の系図を付録**。

見本組③考証

式部考証

補任 秀才（『吉記』。建久九年正月五日 從四位下 策（『明月記』同六日条）。正治元年八月廿一日 散位（『猪隈閑白記』。建仁三年八月十四日 卒（『勅撰作者部類』）。

系図等 從四位下左右京大夫太皇太后宮大進（『尊』）。

大江匡衡

生没年 一長和元年（一〇一一）

家族 父大江重光 母一条撰政家女房三河 赤染時用女（『尊』）。

経歴 天延三年十月廿八日 文章得業生（『中古歌仙三十六人伝』。天延四年正月廿八日 越前大掾（『中古歌仙三十六人伝』。天元二年五月廿六日 对策（『中古歌仙三十六人伝』。天元五年正月卅日 左衛門尉補任（『中古歌仙三十六人伝』。天元五年二月八日 使宣旨（『中古歌仙三十六人伝』。永観二年正月七日 叙爵（『中古歌仙三十六人伝』。永観二年二月一日 甲斐権守補任（『中古歌仙三十六人伝』。永観二年十月卅日 彈正大弼（『中古歌仙三十六人伝』）。

『式部省補任』を使ってみる

赤染衛門を妻にもち、三十六歌仙の一人でもある名儒**大江匡衡**について調べてみましょう。

**見本組①人名索引** 大江匡衡を引く。すると、文章博士、式部権少輔、東宮学士、式部権大輔、文書博士らを経て式部大輔になっていることがわかる。索引ではこれらの**在任期間が一目でわかる**。

**見本組②補任表** 次に**該当の補任表**をみる。寛弘七年（18頁）をみると、式部大輔に同年二月に転任し、また三月に丹波守（元尾張守）、十月に侍従を兼官したことが**出典とともにわかる**。

**見本組③考証** さらに**該当の考証**をみる。すると文章得業生となったことなど、式部省以外の職歴が**出典とともに詳細にわかる**。**人名辞典としても有用**である。

見本組②補任表

式部省補任 一条天皇（寛弘六年〜同七年）

東宮学士	正五下藤原広業	前年に同じ。
大内記	正五下菅原宣義	前年に同じ。
少内記	正六上藤原隆佐	前年に同じ。
大学頭	文室如正	前年に同じ。

寛弘七年（一〇一〇）

式部卿	一品 為平親王（出家）十月九日（『御堂閑白記』）
式部大輔	正四下大江匡衡（転）二月（大治五年正月 大江敦光申文『本朝統文粹』卷第六 奏状・中古歌仙三十六人伝）。（兼）三月卅日 丹波守 元尾張守（『御堂閑白記』・中古歌仙三十六人伝）。（兼）十一月廿五日 侍従（中古歌仙三十六人伝）。
式部権大輔	從四下大江匡衡（転）二月（大治五年正月 大江敦光申文『本朝統文粹』卷第六 奏状・中古歌仙三十六人伝）。（兼）三月卅日 丹波守 元尾張守（『御堂閑白記』・中古歌仙三十六人伝）。（兼）十一月廿五日 侍従（中古歌仙三十六人伝）。

式部省とは 律令制八省の一つ。文官の人事や式典という朝廷の根幹を支える業務を担当しており、中務省とともに他の省より地位が高く、長官の卿には親王が任じられた。

また、文章道大業の者が省務を執り、文筆の官として朝廷の実務を担っていた。文章博士を筆頭に文章道専門職の牙城となり、極めた者は次官の式部大輔となつて、長官に代わり実際の省務を担った。中世以降も他の省とは異なり、文章道大業の諸家によって実体を失わず存続していくことが特徴といえる。

人名索引（キ）

見本組①人名索引

名（姓）	官職	在任期間	本文頁数	考証頁数
キ 久景（姓未詳）	少内記	建暦2年	188	556
久広（安部）	少内記	弘安10年—正応元年	243-245	289
久広（三善）	→安倍久広を見よ			548
久俊（大江）	式部録	保延5年—康治元年	122, 123, 125	300
久明親王	式部卿	永仁5年—延慶2年	251, 253, 254, 256, 262	288
拳周（大江）	式部丞 東宮学士 文章博士 式部権大輔 大学頭	寛弘3年 寛弘8年—長和5年 万寿元年—長暦元年 長元2年—永承元年 寛徳元年	15 21-25, 27 34-44 37-41, 43-50 49	296
拳直（藤原）				440
匡衡（大江）	文章博士 式部権少輔 東宮学士 式部権大輔 式部権大輔 文章博士 式部大輔	正暦元年—長保2年 長徳元年—長徳4年 長徳3年—寛弘4年 長徳4年—寛弘3年 寛弘5年—寛弘6年 寛弘6年—長和元年 寛弘7年—長和元年	1-8, 10 5-8 8-16 8-15 16, 17 17, 18, 20, 21 18, 20, 21	302
匡周（大江）				301
匡時（大江）	式部丞	長治元年	95	301
匡範（大江）				301
匡房（大江）	式部丞 東宮学士 式部権大輔 式部大輔	康平3年 治暦3年—応徳2年 永保3年—応徳3年 寛治元年—嘉保元年	59 64-77 76, 77, 79 79-86	303
教重（紀）	式部録	長承元年—長承3年	118, 119	310
教任（藤原）	式部丞	治安2年	31	484
業基（橘）				377
業継（三善）	少内記	寛喜3年	201	548
業兼（高階）	式部丞	天承元年—長承3年	117-119	371
業兼（中原）	少内記	建仁3年—建永元年	179-182	386
業広（藤原）	式部丞	文永4年	229	476
業綱（高階）	式部丞	久寿2年以前	136	372
業実（藤原）	式部丞	保元元年	137	472